

「科学雑誌で学ぶ日本語Ⅱ」作文練習 11

木下大輔

2022年05月04日

1 第一問

「つまり、高温状態にあるときの流体の温度をなるべく上げた方が熱効率がよい。」という文がありました。「…なるべく…」を含む文を作りなさい。

2 第二問

「これは、融合させる原子核が正の電荷をもっているためだ。」という文がありました。「…ため…」を含む文を作りなさい。

3 第三問

「彼らは火を灯りや暖房、ほかの動物の襲撃から身を守る目的で使うとともに、食物を火で調理して食べるようになった。」という文がありました。「…とともに…」を含む文を作りなさい。

4 第四問

「炎の中心部では、ロウが分解してできた炭素原子の一部が酸素原子と結びつかずに残る『不完全燃焼』の状態になっているために外側よりやや温度が低く、炭素の微粒子が発生する。」という文がありました。「…ずに…」を含む文を作りなさい。

5 第五問

「ロウソクなどちがいで、ガスにはあらかじめ酸素を混ぜてあるので、すすがほとんど出ず、青い炎になる。」という文がありました。「…あらかじめ…」を含む文を作りなさい。

6 第六問

「太陽風やコロナのプラズマは蛍光灯のプラズマと同じようにきわめて薄いため、原子や電子の運動エネルギーとしては非常に高温だが、その中を飛行する探査機などがすぐに同じ温度まで熱せられるわけではない。」という文がありました。「…わけではない…」を含む文を作りなさい。